

### 第3章（保育の内容）に盛り込むことが考えられる事項（たたき台案）

前章に掲げた子どもの発達の特長やその過程を踏まえて、本章では保育の内容を示す。

保育の内容は「ねらい」及び「内容」で構成される。ねらいは保育の目標をより具体化したものであり、子どもが身につけることが望まれる「心情」「意欲」「態度」などを示した事項である。また、内容はこれらのねらいを達成するために保育士が行うべき「養護」と保育士が子どもの発達を援助する「教育」とに分けられる。

養護と教育が一体的に行われるところに保育所保育の特性がある。このうち養護とは「健康・安全で情緒の安定を図る」営みであり、子どもはこのことを基礎にして、5領域にみる活動などを経験するが、教育とはそれらを踏まえての子どもの心身の発達援助である。領域は健康・人間関係・環境・言葉・表現の5領域に分けて捉えられているが、一人一人の子どもが0歳から積み重ねていくものである。それぞれは子どもの発達（育ち）をみる窓口（枠）であるが、子どもの遊びなどでは各領域が相互に関連を持ちながら展開されるものであり、こうした関連性や子どもの育ちの連続性を踏まえ、総合的に保育の内容をとらえ、実施していくことが求められる。

#### 1. 保育のねらい及び内容

##### (1) 養護に関するねらい及び内容

###### [ねらい]

- ① 保健的で安全な環境をつくり、一人一人の心身の状態を把握し、疾病や異常の発見に努め、快適に生活できるようにする。
- ② 一人一人の生活リズムを重視して子どもの生理的欲求を十分に満たすようにする。
- ③ 様々な食品や調理形態に慣れ、楽しんで食事をとることができるようにするとともに、職員間や家庭との連携を図り、子どもの食生活の充実や健康増進を積極的に図っていく。
- ④ 適切な休息をとらせ、心身の疲れを癒し、集団生活による緊張を緩和する。
- ⑤ 自分でできることの範囲を広げながら、生活に必要な基本的な生活習慣や態度を身につけていく。
- ⑥ 外遊びや運動遊びなどを通して体を動かす楽しさを十分に味わえるようにする。

等

## [内容]

- ① 体、衣服、身の回りにあるものを、常に清潔な状態にしておく。
- ② 一人一人の子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、異常を感じる場合は速やかに適切に対応する。また、子どもが自分から体の異常を訴えることができるようにする。
- ③ 楽しい雰囲気の中で、自分で食事をしようとする気持ちを持たせ、様々な食材に親しむようにする。
- ④ 一人一人の子どもの気持ちを理解して受容し、保育士との信頼関係の中で、自分の気持ちを安心して表すことができるなど情緒の安定した生活ができるようにする。

等

## (2) 教育に関するねらい及び内容

### 1) 健康

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。

#### [ねらい]

- ① 安定感をもって快適に生活する。
- ② からだを十分に動かし、進んで外遊びや運動遊びを楽しむ。
- ③ 健康・安全に必要な習慣や態度を身につける。

等

[内 容] 〈ねらいに即して保育内容を列挙する〉

### 2) 人間関係

身近な人と親しみ、共に生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。

#### [ねらい]

- ① 友達や身近な人とかかわり、一緒に活動することを楽しみ、愛情や信頼感をもつ。
- ② 周りの人々に対する親しみを深め、集団の中で自己主張したり、また、人の立場を考えながら行動する。
- ③ 社会生活における望ましい習慣や態度を身につける。

等

[内 容] 〈ねらいに即して保育内容を列挙する〉

### 3) 環 境

身の周りの環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを遊びなどに取り入れていこうとする力を養う。

[ねらい]

- ①安心できる人的、物的環境のもとで、聞く、見る、触れるなどの感覚の働きを豊かにする。
- ②身近な自然と触れ合い、様々な事象に興味や関心を持つ。
- ③身近な事物を見たり扱ったり考えたりする中で発見を楽しんだり、物の性質や数量、文字、記号などに興味、関心を示す。

等

[内 容] 〈ねらいに即して保育内容を列挙する〉

### 4) 言 葉

思っていることや経験したことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話も聞く姿勢を育て、言葉に対する感覚を豊かにする力を養う。

[ねらい]

- ①自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
- ②自分の思いや経験を話すだけでなく、相手の話もよく聞き、伝え合う喜びを味わう。
- ③絵本や物語などに親しみ、友達や保育士と心を通わせる楽しさを味わう。

等

[内 容] 〈ねらいに即して保育内容を列挙する〉

### 5) 表 現

感じたことや思ったことを自分なりに表現し、感性や想像力を豊かにする。

[ねらい]

- ①身の周りにあるいろいろなものに触れたりしてその感触を楽しむ。
- ②感じたことや考えたことを絵画・造形、音や動きなどを用いて自分なりに表現して楽しむ。
- ③身近な自然に触れ、その感動を友達や保育士に伝える喜びを味わう。

等

[内 容] 〈ねらいに即して保育内容を列挙する〉

## 2. (保育実施上の)配慮事項

保育の実施において、保育士は子どもの発達の過程やその連続性を踏まえ、以下のような事項に配慮すること

### (1) 乳児保育に関わる配慮事項

- ①子どもの心身の機能の未熟性を理解し、保健・安全に十分配慮しながら、家庭との連携を密にし、1日24時間の生活を視野に入れて保育すること
- ②一人一人の子どもの生育の違いに留意しつつ欲求を適切に満たし、応答的に関わるようにすること
- ③職員間の連携を図り、保育をすすめるとともに、家庭への育児支援に努めていくこと
- ④担当や組などが変わる場合には、円滑な接続ができるよう職員間で協力して対応に当たること

### (2) 3歳未満児の保育に関わる配慮事項

- ①子どもの心身の発達及び活動の実態など個人差に即して丁寧に保育するとともに、一人一人の子どもの気持ちを受け止め、援助すること
- ②探索活動が十分できるように事故防止に努めながら活動しやすい環境を整え、全身や手を使う遊びを取り入れること
- ③子どもの自分でしようとする気持ちを大切に、自我の育ちを助けること
- ④特に2歳児については、3歳の保育への円滑な接続ができるよう配慮すること

### (3) 3歳以上児の保育に関わる配慮事項

- ①健康安全で情緒の安定した環境の下で、子どもの健やかな育ちが図られることを常に留意すること
- ②身体的・生理的育ちとともに、自主性・自律性さらに社会性の育ちとがあいまって子どもの健康はもたらされることに注目すること
- ③けんかなど葛藤を経験しながら友達と一緒に行動することに喜びを見出し、相互に必要な存在であることを実感できるよう配慮すること
- ④遊びなどの中できまりがあることの大切さに気づき、自ら判断して行動できるよう配慮すること
- ⑤自然物への興味、関心を通じた感性の育ちに注目し、その不思議さ、大きさ、美しさなどに気づきながら認識力、思考力を高められるようにすること
- ⑥自分の気持ちや経験を自分なりの言葉で表現することの大切さに留意し、いつも子どもの話しかけに応ずるよう心がけること
- ⑦感じたことや思ったこと、想像したことなどを、様々な方法で創意工夫をこらし自由に表現できるよう、保育材料をはじめ様々な環境の設定に留意すること
- ⑧6歳児については、子ども同士の協同的な関係を大切にしながら、小学校への円滑な接続ができるようにすること